

## ISS2017 33<sup>rd</sup> International Seating Symposium

### 第 33 回国際シーティングシンポジウム

期間：2017 年 3 月 2 - 4 日

事前ワークショップ 2 月 28 日と 3 月 1 日

会場:米国ナッシュビル

Gaylord Opryland Resort and Convention Center, Nashville, TN

United States

www : <http://www.iss.pitt.edu/ISS2017/ISS2017Reg.html>

[上記の www で抄録が見られます。](http://www.iss.pitt.edu/ISS2017/ISS2017Reg.html)

結果：30 か国、2400 人の参加、107 のブース



#### ■ 今年は

南米シーティングシンポジウム (LASS) - 9/13-15 アルゼンチン

オセアニアシーティングシンポジウム [www.oceaniaseatingsymposium.com](http://www.oceaniaseatingsymposium.com) ニュージーランド 11/20-22

中国は 2 年おき開催なのでなし。

来年 The 34th International Seating Symposium, 3/6-9, 2018,

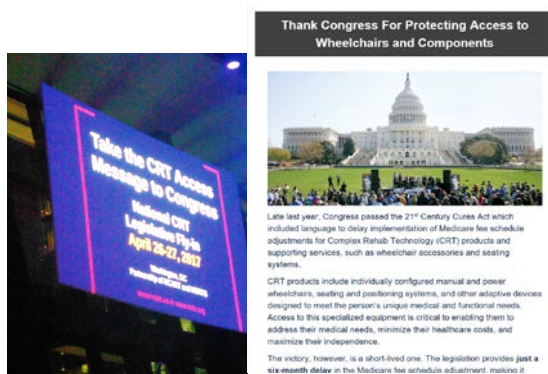
The Westin Bayshore, Vancouver, BC, Canada

#### ■ Cooper との懇談



当初、バラ後に??? Seating symposium を開催という話も出たが、まだ各団体のまとまりもできていない状況で 3 年後に実施は困難。しかし、来年それを盛り上げるということで、Cooper が議連で講義をするということ、後に一般向け講演会を実施する方向で話が一致した。

#### ■ ちょっと気になる活動



Complex Rehab Technology (CRT) 国会議員に対する CRT の普及 (4 月 26/27 日, Virginia)

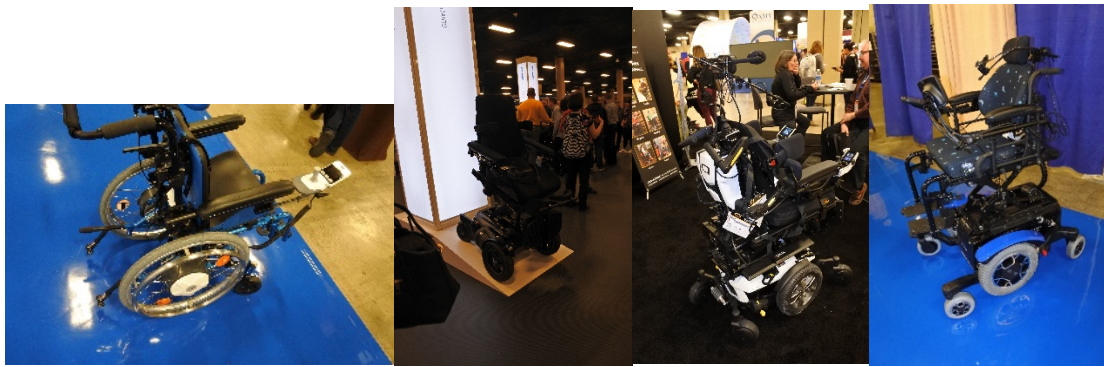
CRT の製品とサービスには、医学的に必要な、個別に構成された手動および電動車椅子システムがあり、適応座席システム、代替位置決めシステム、評価、適合、構成、調整またはプログラミングが必要なその他のモビリティ装置が含まれます。

#### ■ 展示会場

✓ 日本からは



✓ CRT 電動車椅子:テイルト+昇降装置付き+頭部スイッチ+座位保持装置+電動車椅子



✓ その他



✓ 趣味





### 座位保持付きボードと頸損者による絵画創作（口で筆を固定）

- ✓ 企業（クリストファーリープ財団など）ではない展示



### ■ その他

おやつ時間（バケツのなかにナッツやマーブルチョコレートが入っている）とナッシュビルダウンタウンでの懇親会



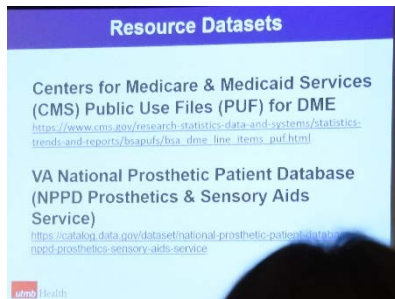
### ■ 日本人の発表

外山（国リハ研）と浮田（十勝リハ）氏の発表

### ■ プログラム

1. BIG DATA 関連

1) DATA science & Rehabilitation：基調講演



## 2) Do We Really Need Big Data? : シンポジウム

BIG data が有効か 3 人の賛成と 3 人の反対意見を述べた。現実にはいろいろなデータ（接触圧や Paramobile のデータ、破損）などがあり、重要である。しかし、データの信頼が置けない部分として、評価の科学性がない、機器を決めていく過程が Science ではなく、Art であるなど多くの問題点がある。

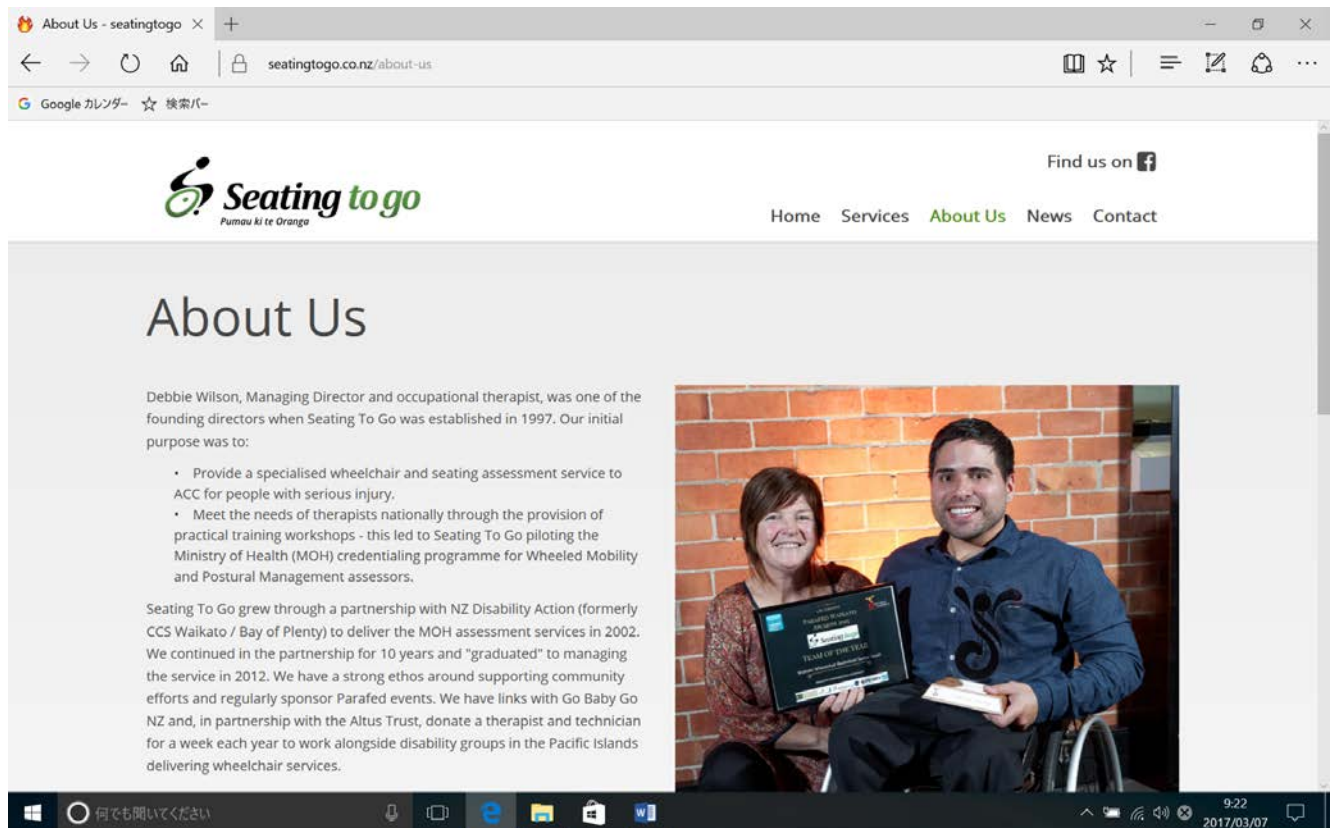
## 2. PTOT への教育

### 1) Clinical Training in Seating and Mobility for Entry-level Physical Therapy Students

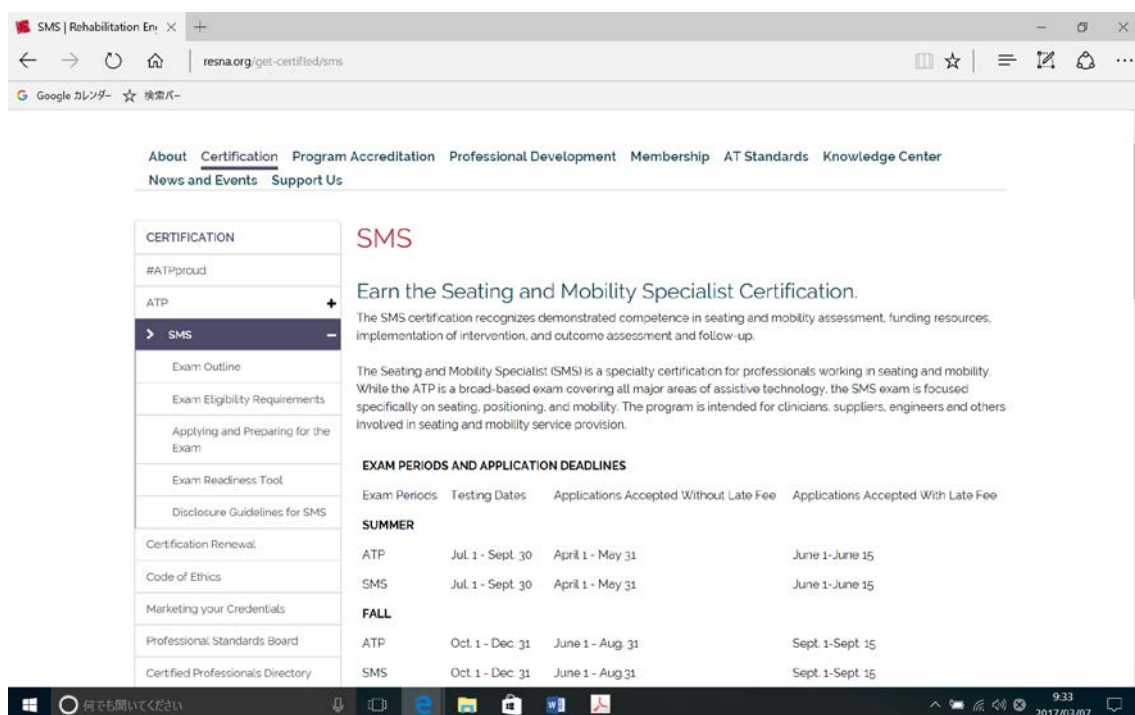
大学でのシーティング基礎教育を修了した PT に対する各疾患別シーティングクリニックを系統的に経験することの重要性とその効果を述べた。

### 2) Creating a tool to define and evaluate competencies for training positioning and mobility specialists

ポジショニングとモビリティの専門家のトレーニングのための能力の定義と評価のためのツールの作成を目的に、形式は看護で取り入れられている CAPE tool 使用して、ニュージーランドの Seating to GO と RESNA の SMS を検討して開発。



Seating to Go: このサービスは、OT が設立し、保健省と強調して車椅子やシーティングを必要とする人に対してのアセスメントサービスや実践的なトレーニングワークショップの提供し、資格認定プログラムを持っている。



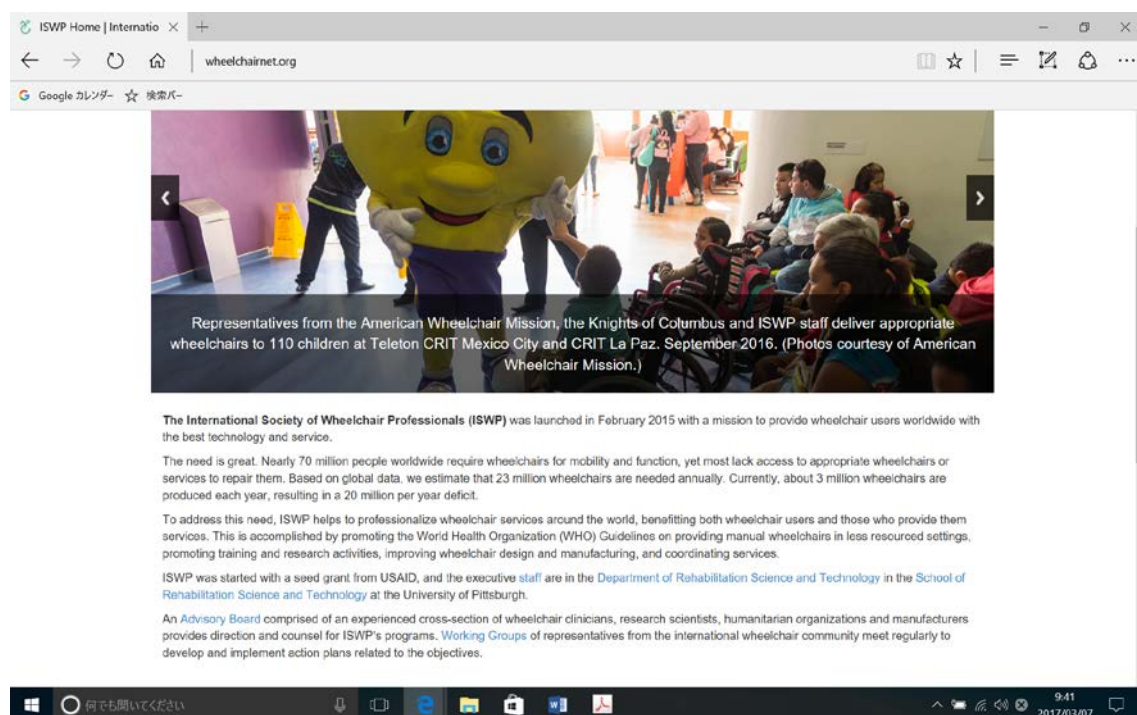
## SMS

シーティング・モビリティ・スペシャリスト（SMS）は、RESNA の資格制度の一つで、座席と移動性を専門とする専門家のための専門認証です。 ATP は、すべての主要な補助技術をカバーする幅広いベースの試験ですが、SMS 試験は、座席、配置、移動性に重点を置いています。 このプログラムは、臨床医、サブライヤー、エンジニア、および座席およびモビリティサービスの提供に関わる他の人を対象としています。

### 3) How Do We Learn the Skills to Become Seating Therapists?

結論：126 人の作業療法士と理学療法士がこのアンケートに回答し、回答者のほぼ半数が、大学での Seating と Mobility に関する 1 日未満の教育を受けたと報告しています。回答者の 65% が、Seating のセラピストとしてのキャリアを開始したときに受けたトレーニングは、この役割のために準備するには不十分であると述べています。全体として、回答者の 91% が、自分の仕事を遂行するために追加の訓練を受けたと回答しています。

講演の中で、以下の ISWP は重視していました。



ISWP Home | Internatio x +  
wheelchairnet.org  
Google カレンダー ☆ 検索バー

Representatives from the American Wheelchair Mission, the Knights of Columbus and ISWP staff deliver appropriate wheelchairs to 110 children at Teleton CRIT Mexico City and CRIT La Paz, September 2016. (Photos courtesy of American Wheelchair Mission.)

**The International Society of Wheelchair Professionals (ISWP)** was launched in February 2015 with a mission to provide wheelchair users worldwide with the best technology and service.

The need is great. Nearly 70 million people worldwide require wheelchairs for mobility and function, yet most lack access to appropriate wheelchairs or services to repair them. Based on global data, we estimate that 23 million wheelchairs are needed annually. Currently, about 3 million wheelchairs are produced each year, resulting in a 20 million per year deficit.

To address this need, ISWP helps to professionalize wheelchair services around the world, benefitting both wheelchair users and those who provide them services. This is accomplished by promoting the World Health Organization (WHO) Guidelines on providing manual wheelchairs in less resourced settings, promoting training and research activities, improving wheelchair design and manufacturing, and coordinating services.

ISWP was started with a seed grant from USAID, and the executive staff are in the Department of Rehabilitation Science and Technology in the School of Rehabilitation Science and Technology at the University of Pittsburgh.

An Advisory Board comprised of an experienced cross-section of wheelchair clinicians, research scientists, humanitarian organizations and manufacturers provides direction and counsel for ISWP's programs. Working Groups of representatives from the international wheelchair community meet regularly to develop and implement action plans related to the objectives.

2015 年 2 月、世界中の車椅子利用者に最高の技術とサービスを提供する国際的な車椅子専門家協会（ISWP）が設立しました。ISWP は 5 つの目的を持っています：1. 車椅子分野を拡大し、専門化する。2. 国際的な車椅子基準を作成し、車椅子提供データを収集し共有する。3. 車椅子部門内および関連する専門家団体間の調整を促進する。4. 世界の車椅子の供給を改善し、特に低所得国での供給を促進する。5. 適切な車椅子サービスのための認識とリソースを主張する。特に、下記の WHO と共同で開発した Training Packages があるようです。



WHO Wheelchair Service Training – Basic Level (WSTP-B)

WHO Wheelchair Service Training – Intermediate Level (WSTP-I)

Wheelchair Service Training Package for Managers (WSTPm)

Wheelchair Service Training Package for Stakeholders (WSTPs)

Trainers' Manual for Wheelchair Service Training – Basic Level

### 3. 電動車椅子関連

Powered Wheelchair Provision: Current Practices and Opportunities

米国、カナダとも人口の1%が電動使用者であり、それは参加、健康、QOL、発達などに効果があるとされている。Power w/c skill assessment and training を基本として、安全性に関する評価として、認知、方向把握等を重視すべきである。電動車椅子が供給できない理由として、環境要因、財源、認知が挙げられた。

### 4. シーティング・クリニック

#### 1) CARF Accreditation in Assistive Technology

リハビリテーション施設の認定委員会→医療評価

#### 2) The Seating Clinic: Business Realities for Success

シーティングクリニック：成功に向けたビジネス現実

### 5. その他

#### 1) An Online Wheelchair Maintenance Training Program for Clinicians

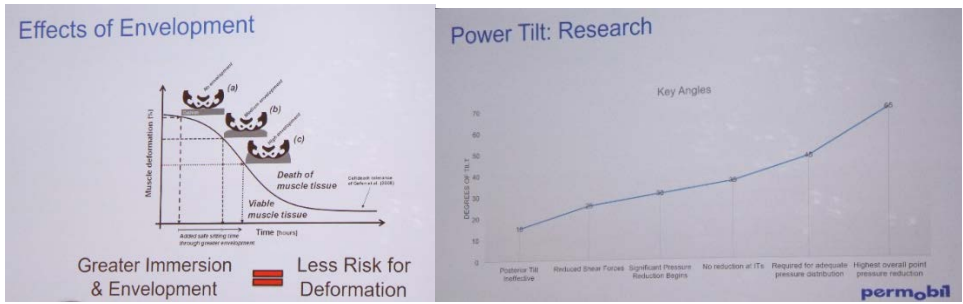
<http://www.upmc-sci.pitt.edu/wmtp-landing>



#### 2) Research & Evidence-Based Practice for Pressure Management and Tissue Integrity

比較的新しい情報は以下の PP であるが、出典は不明。





### 3) Car Seats and Vehicular Transport for Children with Special Needs

#### 障害児の自動車シートと乗り物輸送

子供の自動車安全のために、Child Passenger Safety Technician: 民間？での 32 時間講習があり、障害児用として 障害児用 CPST がある。

以下、いわゆるチャイルドシートの障害児版について解説。

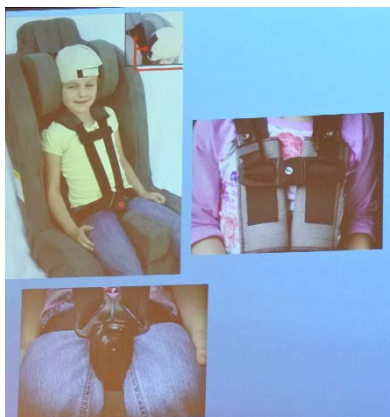
健常児当シートで対応できないとき：

乳児用の紹介

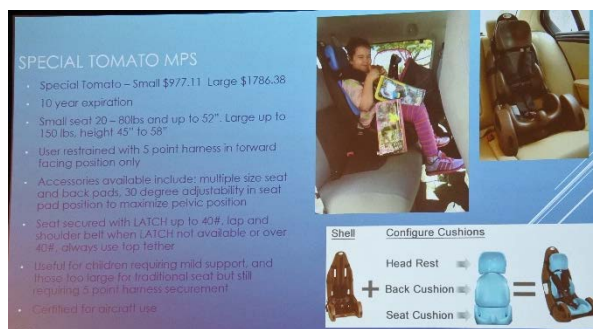
#### DREAM RIDE

- Cosco (Dorel) - \$115-\$150
- 5-20 lbs and 19" to 26"
- Child restrained in supine or prone with a 3 point restraint
- No available positioning accessories
- Restraint takes 2 seats on bench seat, head of child should be positioned towards center of vehicle. Must use vehicle lap and shoulder belt; NO LATCH
- Beneficial for children who are very small, have medical conditions that may result in breathing or heart rate problems when in a semi reclined position of a rear-facing seat
- Not certified for aircraft use

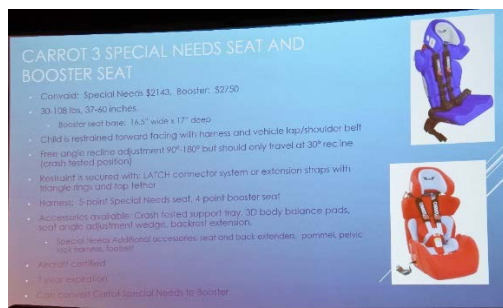
5 点シート；頭部の前傾を抑える



飛行機対応もある。



Harnessed Booster:…>>>Convaid Carrot 3



なるべくなら、車椅子より自動車シートで対応する。

財源：CMS Medicaid であるが、昔はこれらは医療の必要性ではなく、安全事項であり、対応していなかった。全体で苦労している。

頸部カラーでの安全性は硬いのはダメのようだ。

発達障害児で、障害児用チャイルドシートを使用した例も紹介された。

## ■ まとめ

私自身今回、参加し Seating Clinic など組織化の状況について講義を聞いたのですが、日本は診療報酬の病院のなかで assistive technology さえも全く書かれていない、否、それがあるから身体能力が衰える的な意見が蔓延している状況です。それに対して 25 年前に欧米を訪問し、SC が当たり前になり、現在、PT 教育の実習として SC を入れる効果やリハ病院認証制度に SC が入っているなど、生まれることが出来ないマイナス 5 歳の日本の SC の状況と欧米の成長した大人の状況を垣間見た気がしました。これは電動車椅子の普及も同じ状況でした。これらに興味を持っている人を欧米に派遣し、しっかり調査し、少し根付かせることも必要だと思いました。

また、車椅子など ISWP、ニュージーランドの Seating to Go、RESNA の SMS、そしてピッツバーグ大学の車椅子自体も国際化、科学化しており、それらを注視し、同時に派遣することも必要だと感じました。

それにしても診療報酬で福祉機器が全く入らない問題は早急に解決する（マイナスをゼロ歳に）のが、財団の優先事項だと考えています。